

シギ・チドリ類調査 ニュースレター

2024年度秋期概要版

環境省自然環境局生物多様性センター / NPO法人バードリサーチ

モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査 2024年度秋期調査結果の概要

全国100ヶ所のサイトで実施

2024年度秋期調査は、2024年8月1日から2024年9月30日までの期間に実施されました。全国100ヶ所（暫定値）のサイトで調査を実施し、このうち一斉調査（2024年9月22日を基準日とした前後1週間の調査）には88サイトが参加しました。一斉調査期間では、シギ・チドリ類47種10,360羽のほか、ツクシガモ1羽、ヘラサギ2羽、クロツラヘラサギ98羽が記録されました。秋期の全サイトの最大個体数（調査期間内に記録された各種個体数の最大値）の合計は、シギ・チドリ類52種26,012羽のほか、ツクシガモ3羽、ヘラサギ11羽、クロツラヘラサギ145羽でした。

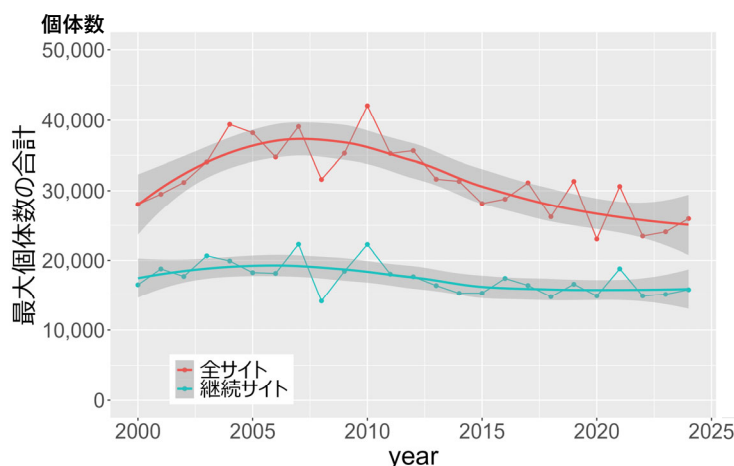


Fig. 1. 秋期調査における全サイトと継続サイトの最大個体数合計の推移（2000年度から2024年度の全サイトN=161, 継続サイトN=40）年次変動の大きい海上生活者のヒレアシシギ類は除外。

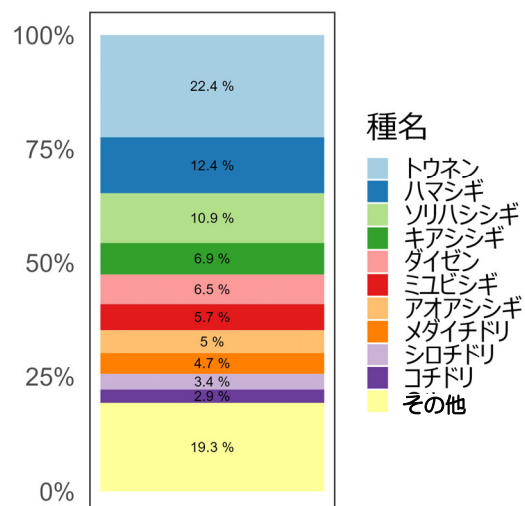


Fig. 2. 2024年度秋期調査における種構成比

個体数は増加傾向

2000年度秋期以降の「全サイト」と「継続サイト（2000年から調査を継続しているサイト）」のそれぞれの最大個体数の合計を、ヒレアシシギ類（年次変動が大きく、海上生活者であるため）を除いてグラフに示しました（Fig. 1）。全サイトには廃止済のサイト・新規サイトが含まれるため、継続サイトとは傾向が異なる場合があります。調査年の実績を示すために全サイトを、経年変化を把握するために継続サイトを解析しています。最大個体数の合計を前年度秋期と比べると、全サイトでは1,894羽増加し25,961羽、継続サイトではほぼ変わらず、679羽増加して15,775羽となりました（前年比、全サイトで7.9%増、継続サイトで4.5%増）。全サイト・継続サイトともに、2年連続で増加傾向にあり、傾向は、全サイトでは減少傾向、継続サイトでは安定傾向となっています。

トウネンの優占率が20%を越える

2024年度秋期調査におけるシギ・チドリ類の種構成比をみると、個体数上位は、トウネン（22.4%）、ハマシギ（12.4%）、ソリハシシギ（10.9%）で（Fig. 2）、トウネンの優占率が12.8%から22.4%と大きく上がり、順位もハマシギと逆転しました。3位は、ソリハシシギとなり、キアシシギ、ミユビシギ、ダイゼンの4～6位グループが続きました（Fig. 3）。また、コチドリが20年ぶりに10位以内に入りました。シロチドリは秋期の順位で下降傾向にあり、留鳥であるため繁殖状況が変化している可能性があります。

トウネン、ホウロクシギの増加

種別最大個体数の前年比較では、トウネンは大きく増加しており、2,765羽（約90%増）増加していました（Table 1 左表）。続いて、オバシギ、ハマシギ、ミヤコドリ、ホウロクシギが、100羽以上増加していました。最も増加率が高かったのはホウロクシギで、約2.5倍の205羽が観察されました。減少数の多い種では、ミユビシギが673羽減少（前年比約30%減）、キアシシギが438羽減少（同比約20%減）、続いてシロチドリ、メダイチドリ、ムナグロなどのチドリも減少していました（Table 1 右表）。

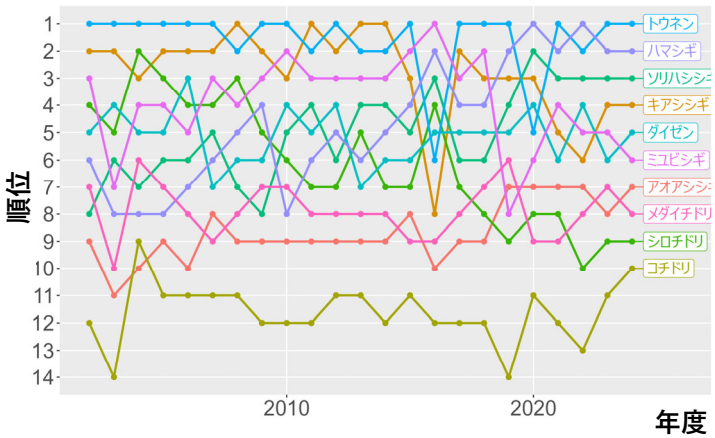


Fig.3. 2024年度秋期調査における最大個体数上位10種の順位の変化(2000年度から2024年度)

Table1. 2024年度秋期 種別の最大個体数の前年度差 左:増加数上位5種、右:減少数上位5種

2024年度秋期最大個体数 増加数上位種 (全サイト)					2024年度秋期最大個体数 減少数上位種 (全サイト)				
種名	2023年度秋	2024年度秋	前年度差	前年度比	種名	2023年度秋	2024年度秋	前年度差	前年度比
トウネン	3,071	5,836	2,765	1.90	ミユビシギ	2,161	1,488	- 673	0.69
オバシギ	232	428	196	1.84	キアシシギ	2,223	1,785	- 438	0.80
ハマシギ	3,053	3,216	163	1.05	シロチドリ	1,061	875	- 186	0.82
ミヤコドリ	351	488	137	1.39	メダイチドリ	1,392	1,216	- 176	0.87
ホウロクシギ	88	205	117	2.33	ムナグロ	817	675	- 142	0.83

大授搦サイトの個体数が例年通り多い

最も個体数が多かったサイトは、例年と同じく大授搦（佐賀県）となり、以下、風蓮湖（北海道）、泡瀬干潟（沖縄県）、白川河口（熊本県）、高瀬川河口～むつ小河原港（青森県）の順でした（Table2）。2000年以降すべての調査回で大授搦は、最も個体数の多いサイトであり、増加傾向も続いています。

50羽以上観察されたサイトのうち増加数は、高瀬川河口～むつ小河原港（300羽から927羽）、泡瀬干潟（647羽から1,231羽）九十九里浜北部（169羽から558羽）などで大きく観察数が増え、減少数では、野付崎・尾岱沼（1382羽から811羽）、九十九里浜南部（479羽から271羽）などが、約40%減少していました。上位に個体数が増えたサイトが多く確認されたものの、サイト毎の増減傾向に地域的な傾向はあり

Table2. 2024年度秋期 サイト別の最大個体数 上位10サイト

2024年度秋期最大個体数 上位10サイト				
サイト	2023年度秋	2024年度秋	前年度差	前年度比
大授搦	5,093	5,274	181	1.04
風蓮湖	1,384	1,321	- 63	0.95
泡瀬干潟	647	1,231	584	1.90
白川河口	1,050	1,230	180	1.17
高瀬川河口～むつ小河原港	300	927	627	3.09
氷川	682	902	220	1.32
野付崎・尾岱沼	1,382	811	- 571	0.59
コムケ湖	734	797	63	1.09
球磨川河口	976	747	- 229	0.77
博多湾東部（海ノ中道海浜公園-西戸崎）(b)	52	648	596	12.46

ませんでした。

総じて、今秋期は、前年に続いて全体の個体数は増加傾向にあり、特に近年減少が懸念されていたトウネンの個体数が大きく増加していました。

モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター タイトル写真:チュウシャクシギ(守屋年史)
2024年度 秋期概要

発行元: 環境省自然環境局生物多様性センター

<https://www.biodic.go.jp/moni1000/>

編集: 特定非営利活動法人 バードリサーチ

<http://www.bird-research.jp/>

編集者 守屋年史

電話/Fax:042-505-4044

メール: shigichi@bird-research.jp